

第5学年1組 社会科学学習指導案

指導者 清野 貴史

1. 日時・場所 令和8年1月21日（水） 5校時 体育館
2. 単 元 名 「環境をともに守る」 ～川崎市の公害と改善に取り組んできた人々～
3. 学校教育目標と社会科（本単元）で目指す子どもの姿

川崎市立西菅小学校 学校教育目標
かしこく 心豊かで たくましく 自分で考えて行動する子 共に生きる子

＜西菅小学校が目指す子どもの姿＞

かしこく（知）	心豊かで（心）	たくましく（体）
☆自ら学ぶ子、共に学ぶ子 ☆獲得した知識や技能を基に考え判断し、進んで実行して、よりよく生きる子	☆自他のよさを互いに認め、相手の気持ちや立場を尊重して活動する子 ☆目標に向かって実行し、継続する子	☆自他の命、互いの心や身体を大切にし、活動する子 ☆健康で安全に過ごすことのよさを感じ、進んで取り組む子

＜重点施策＞

* ◎は、最重点

かしこく（知） K	心豊かで（心） Y	たくましく（体） T
夢中、表現、想像力	思いやり、感謝、協力	健康、安全、体力向上
◎基礎基本の定着を図りながら、児童が学びに夢中になれる授業づくりに努める。 ○学び方がわかり、自分の思いや願い、考えを表現できる授業づくりに努める。 ○読書活動やGIGA端末を活用した教育活動を通して、児童の創造力を育成する。	○進んで挨拶し、よりよい関わりをもとうとする児童を育成する。 ○思いやりや感謝する心を育む。 ○友だちと協力して進んで活動し、目標に向かって最後まで粘り強くやり通す児童を育成する。	◎心身ともに健康な生活を送るための行動の基礎（睡眠・栄養＜給食＞運動）を身に付け、免疫力の向上を図るように努める。 ○学校の決まりや交通ルール、防災防犯の意識をもって安全で安心して生活することのできる児童を育成しながら、環境整備にも努める。 ○運動のよさに気づき、進んで体力づくりのできる児童を育成する。

＜校内研究＞令和7～8年度社会科研究推進校

テーマ「学びに夢中になる子～『やってみよう』『どうすれば』『やってよかった』『もっとこうしたい』～」

西菅小学校が目指す子どもの姿にせまるために、職員が一丸となって取り組んでいる。校内研究としては、社会科、生活科を通して、子どもたちが夢中になるような授業づくりに取り組んでいる。子どもたちが夢中になる姿について、「動き出す」「継続する」「生かす」という3つの視点で単元を構想している。そして自分の思いや願い、考えを表現できる手立てを工夫し学習活動を展開するようにしている。

5年生の社会科では、目指す子どもの姿に向かうために、教材化、学習過程、学習活動に重点を置いて授業づくりを行っている。教材化では、子どもたちの問題意識を高めるような教材づくりをしている。子どもたちにとって身近なものや、今までの生活経験では考えられない驚きをもつような社会的事象との出会いを大切にしている。学習過程においては、問題解決的な学習を大切にし、疑問をもとに学習問題、学習計画を立て、学習を展開するようにしている。そこでは、社会的な見方・考え方を働かせて考えるようにしたり、獲得した概念的知識を活用したりすることを大切にしている。学習活動では、多様な学び方を大切にして、一人一人が選択できるような環境を設定している。個々の調べる時間、友達と共有する時間を十分に保障している。

4. 単元目標

我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、公害の発生時期や経過、人々の協力関係などに着目し、地図帳や各種の資料で調べてまとめ、公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現することを通して、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解できるようにするとともに、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解できるようにする。そして、主体的に学習問題を追究解決しようとしたり、学習したことを基に国民の一人として国土の環境保全について、自分たちにできることを考えようとしたりする態度を養う。

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などについて、地図帳や各種資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、公害防止の取組を理解している。 ②調べたことを関係図などにまとめ、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解している。	① 公害の発生や経過、人々の協力や努力などに着目して問いを見出し、公害防止の取組について考え表現している。 ②公害防止の取組と環境改善や人々の健康な生活に関連付け、公害防止の継続性、協力的な取組の大切さを考えたり、国土の環境保全について自分たちに協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	①我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、環境を守るために自分たちに協力できることを考えようとしている。

6. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

(1) 教材化 ～川崎市の大気汚染から日本の公害を考える～

本単元は、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解することとともに、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解できるようにする単元である。川崎市は、戦後の復興、高度経済成長を支えた工業都市である。その産業発展とともに、工場から出る煙や排水が市民の生活や健康を脅かす原因となった。そこで、市民や行政、企業のそれぞれの立場が取り組みを行い、公害の改善に取り組んできた。全国に先駆けて、日本一厳しい条例と言われる「川崎市公害防止条例」を制定するなど、公害の防止にも力を尽くしてきた。全国から見ても川崎市には「公害」のイメージがあると言われている。関係機関や人々が公害に向き合い取り組んできたことやその思いを学ぶことによって、公害から生活環境を守ることの大切さを子どもたちがより実感できると考える。また、それらの問題はまだ終わりを迎えたわけではなく、現在も続いており、その問題に向き合っていく必要がある。これからの未来を担う子どもたちが、切実感をもって環境を守るためにできることを考えていくことにつながるようにしていきたい。

(2) 学習過程 ～人々の取り組みや思いを大切にしたい学びの展開～

大気の汚染を事例として選択し、単元の前半を産業型公害、単元の後半を都市型公害といった学習展開としている。単元の入り口では、公害と出会う時間とした。公害とはどのようなものか、それによって人々の生活環境がどのように脅かされるものなのかについて知る。そこで、私たちの住む川崎市においても公害が起き、人々がそれを改善するために取り組んできた事実から、「だれがどのようにして、

川崎市の青い空を取り戻したのか」という単元の問いを設定する。単元の問いをもとに、これまでの単元の学びをもとに、子どもたちが主体的に調べ、問題解決ができるように学習計画を立てる。様々な立場やその取り組み、思いや努力に注目し学習計画を整理できるようにしたい。計画をもとに具体的に調べ、次時にグループで調べたことを共有して、調べた内容を整理する。そして、整理した情報をもとにして、単元の問いについて考え、結論を出していく。個々が年表にまとめ、単元の問いについてまとめていく。8時間目には、都市型公害について学ぶことで自分たちの生活も原因があり、現在も公害は続いているという事実をとらえるようにする。単元の終末には、今までの学びをもとにして、自分たちにできることを選択・判断していくように学びを展開する。

(3) 学習活動 ～子どもたちが「自ら動き出す」学習活動の充実～

調べる活動では、行政（国・川崎市）、企業、市民の視点を選択して、それぞれの取り組みについて調べていく。調べる順序や時間、方法についても選択することで、主体的に学習を進めることができるようにする。個人で調べることや複数で調べることにも必要に応じてそれぞれが取り入れていく。調べる活動が終わった後、共有する時間を設けることで、事実や理解がより確かなものとなるようにする。そこで学んだことをもとにして話し合うようにする。グループごとの時間を設け、その後は、グループ同士やクラス全体の交流を自由に進めるようにする。教師がファシリテートすることで、子どもたち自身が問題解決を図れるような話し合いになるようにしていきたい。

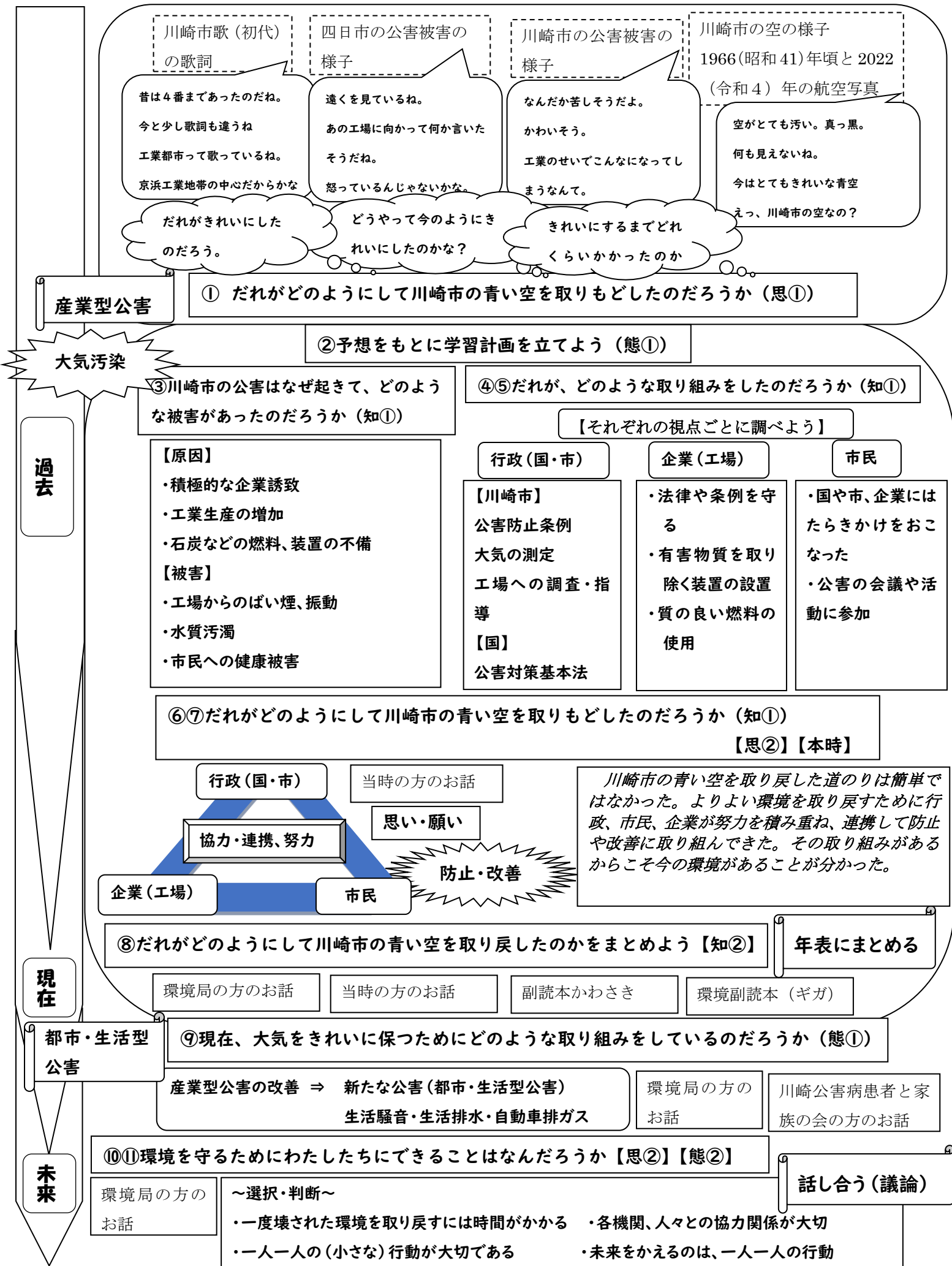
(4) 指導と評価の一体化 ～教師の見取りの充実と子どもたち同士の価値づけ～

ノートと GIGA 端末を場面に応じて活用することで、明確に評価できるようにしていく。調べる時間は、個々に合わせたツールを選択するため、学びの状況をそれぞれ見取るようにする。また、学習のまとめについては、ノートやワークシートを活用して理解したことを適切にまとめることができているかを評価する。授業の「振り返り」では、GIGA 端末のアプリを活用する。授業開始や話し合う場面等で振り返りを参照したり交流したりすることで、思考の広がりや深まりにつながると考えている。友達のどの考えが効果的であったかをフィードバックすることによって、教師の見取りだけでなく、相互評価の観点からも評価を充実していきたい。

(5) 一人一人が生きる社会科学習 ～学びに夢中になる子どもたちを目指して～

本校の研究テーマである、一人一人が「学びに夢中になる姿」を目指し、日々教育活動を行っている。そのためには、互いの意見を認め合うことや適切な支援を行うことによって、学びに十分に向かうことができると考える。例えば、良いと思った資料は即時的に黒板や GIGA 端末を活用して共有したり、いつでも友達と意見を交わすことのできる教室環境や学級風土をつくったりしてきた。また、学習の振り返りを共有し、相手の考え方について互いに価値づけるようにしてきた。既習を生かして考えている様子や社会の見方や考え方につながる姿を認め合うようにしてきた。本単元においても、友達と学び合いながら一人一人が夢中になる学びの実現を目指していくようにしたい。

7. 問題解決的な学習の充実に迫る単元構想



8. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（10時間）

※☐は評価したことを記録に残す場面

○ 本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料	評価方法【評価規準】
① 公害の発生や経過、人々の協力や努力などに着目して問いを見出すようにする。	○戦後の経済発展の中で、国民の健康に被害が出たことを知る。 ○川崎市でも同様に工場からの煙などによって市民に健康に被害が出たことを知る。そしてそれらが、現在改善してきたという事実を知ること、疑問をもち、単元の問いをつくる。	◇「四日市ぜんそく」「川崎市」の被害の様子 ◇1966（昭和41）年ごろの川崎市の臨海部の様子と2022（令和4）年ごろの川崎市の臨海部の様子	発言内容やノートの記述内容から、「だれがどのような取り組みをして川崎市の青い空を取り戻したのかと問いを見出しているか」を評価する。 【思－①】
② 公害の発生や経過、人々の協力や努力などに着目して、我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、予想や学習計画を立て主体的に学習問題を追究し、解決しようとするようにする。	○単元の問いをもとに、学習計画を立て、調べる視点や方法を整理する。 ○「川崎市の公害が起こった原因、被害の様子」「だれが」（行政、企業、市民の立場）と「どのような取り組みをしたか」を視点にできるようにする。	◇前時の黒板の写真 ◇今までの学習内容（ノート）	発言内容やノートの記述内容から、「予想や学習計画を立て、解決の見通しを見出しているか」を評価する。【態－①】
③ 公害の発生などについて、各種資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、公害の概要や公害防止の取り組みについて分かるようにする。	○公害の概要や原因などについて調べ、時代背景や人々の生活についてノート（GIGA 端末）に記録する。 ○学習問題に対してだれが、どのような取り組みをしたのか調べる。 ・国や市は市民の声を聞いて法律を整えた。 ・企業は、有害物質が出ないような対策を行った。 ・市民は、行政や企業に働きかけた。 ○調べたことをノート（GIGA 端末）に記録する。	◇副読本かわさき ◇配付資料（スライド）	ノートの記述内容から、「公害の発生などについて、各種資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、公害の概要や公害防止の取組を理解している。」を評価する。 【知－①】
④⑤ 公害の経過などについて、各種資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、公害の概要や公害防止の取り組みについて分かるようにする。	○学習問題に対してだれが、どのような取り組みをしたのか調べる。 ・国や市は市民の声を聞いて法律を整えた。 ・企業は、有害物質が出ないような対策を行った。 ・市民は、行政や企業に働きかけた。 ○調べたことをノート（GIGA 端末）に記録する。	◇副読本かわさき ◇配付資料（スライド）	ノートの記述内容から、「公害の経過などについて、各種資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、公害の概要や公害防止の取組を理解している。」を評価する。 【知－①】
⑥ 調べたことを関係図にまとめる活動を通して、関係機関や地域の人々の様々な努力	○前時までに調べたことをグループで交流し、図で整理してまとめる。 ・国（市）、企業、市民の3つの立場をもとにして関係図にまとめる。	◇副読本かわさき ◇配付資料（スライド） ◇ノート	発言内容やワークシートの記述内容から、「調べたことを関係図などにまとめ関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の

により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解できるようにする。	○グループごとに画用紙を使ってまとめる。 ・3つの立場について調べた情報をまとめるようにする。		改善が図られてきたことを理解している。」を評価する。【知－①】
⑦公害防止の取組と環境改善や人々の健康な生活に関連付け、公害防止の継続性、協力的な取組の大切さを考えるようにする。 【本時】	○前時にまとめた図をもとにして「だれがどのような取り組みをして川崎市の青い空を取り戻したのか」について話し合う ○グループの考えをまとめる。 ○自分の考えを表現する。	◇副読本かわさき ◇配付資料（スライド） ◇ノート ◇前時の画用紙	グループ活動での発言内容やノートの記述内容から、「公害防止の取り組みと環境改善や人々の健康な生活に関連付け、公害防止の継続性、協力的な取組の大切さを考え表現している。」を評価する。【思－②】
⑧調べたことを年表にまとめる活動を通して、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するようにする。	○単元の問い「だれがどのような取り組みをして川崎市の青い空を取り戻したのか」について理解したことを年表にまとめる。 ○完成した年表を交流することでさらに理解を深める。	◇副読本かわさき ◇配付資料（スライド） ◇ノート ◇前時の画用紙	ワークシートの記述内容から、「調べたことを関係図などにまとめ関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解している。」を評価する。 【知－②】
⑨公害の発生や経過、人々の協力や努力などに着目して、我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、予想や学習計画を見直し、調整して主体的に学習問題を追究し、解決しようとするようにする。	○都市型公害について知ることによって現在も公害が続いていることが分かる。 ○都市型公害について調べ、自分たちの生活にも原因があることを知る。 ○自分たちの生活や行動を見直していく必要があることに気が付く。	◇川崎市環境局の方のお話 ◇副読本かわさき ◇配付資料	発言内容やノートの記述内容から、「予想や学習計画を見直し、調整して解決の見通しを見出しているか」を評価する。 【態－①】
⑩⑪学習したことを基に、国土の環境をさらに向上させていくためにはどうしていったらよいかを考えるようにする。	○環境を守るためにどんなことを大切に考えたり行動したりすればよいかについて調べる。 ○調べたことについて自分たちができることを考え、話し合う ○自分にできることを考え、表現する。	◇川崎市環境局の方のお話 ◇副読本かわさき ◇配付資料	発言内容から「学習したことを基に、国土の環境を守るために自分たちに協力できること選択・判断している。」を評価する。 【思－②】 振り返りの記述内容から「学習したことを基に、国土の環境を守るために自分たちが協力できることを考えようとしている」を評価する。【態－②】

9. 本時の展開 (7 / 10)

(1) ねらい

公害防止の取組について調べ、まとめた図をもとに話し合うことを通して、公害防止の取組と環境改善や人々の健康な生活を関連付け、公害防止の継続性、協力的な取組の大切さを考えるようにする。

(2) 展 開

学習活動	・予想される児童の反応 (☆教師の発問)	支援(○)と評価規準
<p>=前時までの子どもの意識= 国・市や企業、市民がそれぞれの立場で公害の改善に向けて様々な取り組みをしてきたことを調べ、グループで情報を整理してまとめている。</p>		
<p>だれがどのような取り組みをして川崎市の青い空を取り戻したのだろうか</p>		
1. 単元の問いの確認をする。	<p>前時にまとめた図 (画用紙) 副読本かわさき</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場の取り組みについて、分かった。 今日はまとめたことをもとにして話し合うのだったね。 	○単元の問いを全員で共有できるように、前時の写真などを活用して振り返るようにする。
2. グループで話し合いを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市は、工場にきまりを作ったから、それで公害が改善するように取り組んできた。 市民の動きが市や国を動かしてきたから、公害に対しての動きが変わってきた。 3者の意識が公害に向くように動き始めたから改善してきたのではないかな。 川崎市や企業、市民が協力して公害の改善に取り組んできたことが分かる。 改善に向かいながらも努力を続けてきたから、今も青い空が保たれている。 いろいろな人々の努力があって今の川崎市のきれいな空がある。 	○話し合いがスムーズに進行するように、司会や記録などの役割分担を行うようにする。
3. クラス全体・グループ同士で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループはどのような考えなのかな。 グループ同士で交流しよう。 もう一度グループに戻って話し合いを見直したいな。 考えがまとまりそうだから、ここのグループでは、結論を出していこうよ。 クラス全体でも考えをまとめていきたいな。 みんなはどう考えているのだろう。 	○多くの意見を交流できるようにするために、グループごと、数グループ、全体などの形態を自由に選び、変えられるようにする。
4. 話し合いの見直しとまとめをする。	<p>公害病患者と家族の会の方のお話</p> <p>☆本当にうまく協力して取り組んできたのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単にはいかなかった。 本当に協力的にできたのかな。 被害を訴えることにも難しさがあったのだね。 きっと相手を責めるだけでは解決しない問題もあったんじゃないかな。 	○自分たちの結論を見直すことができるようにするために、資料を提示して考えを揺さぶる。
5. 学習の振り返りをする。	<p>国、川崎市など行政は、法律の整備や調査を行い、企業は公害を再び起こさないような対策を行ってきた。市民は、それぞれにはたらきかけなどを行い、それぞれが協力や連携をして公害の改善に取り組んできた。その道のりは簡単ではなく、厳しいきまりを守ったり互いに努力を積み重ねてきたりしたからこそ、今の環境がある。</p>	<p>グループ活動での発言内容やノートの記述内容から、「公害防止の取り組みと環境改善や人々の健康な生活を関連付け、公害防止の継続性、協力的な取組の大切さを考え表現している。」を評価する。</p> <p>【思－②】</p>

